

打ち上げ花火に願い込め

小川自治会が実施

15日、能登川地区に広がる田園地帯から210発の花火が打ち上げられ、夏の夜空を彩った。

打ち上げ花火は小川

町の自治会が企画したもの。小川町では毎年この時期になると、地元住民らでにぎわう納涼祭が催されている。自治会で最も大きい催

しの一つで、会場には組ごとの露店が並び、地域住民らが一堂に集う親睦の場ともなっていた。しかし、昨年、今年

と、新型コロナウイルスの影響で2年連続の中止となった。「コロナ禍でも何かできることは」と、飲食や密にならないよう感染症対策のうえで実施できる催しを役員らで何度も検討し、打ち上げ花火を企画。地域住民をはじめ、地元事業所などの

賛同もあり、実施するための協賛金も集まった。

打ち上げられる花火の球には、住民らの願い札も貼られた。打ち上げ花火に使用される特製の張り紙に願い事を書いたもので、住民らに募集を呼びかけたところ、「コロナに打ち勝つ」など、感染症の終息への願いや感謝の言葉が多数寄せられたという。

実施当日、前日まで続いていた大雨がぴたっとやんだ。午後8時の打ち上げに合わせ軒先の歩道に住民らの姿がみえ、それぞれが距離を保ったまま花火を観賞。打ち上げと同時に歓声が上がリ、約10分間、夏の夜空を演出する色とりどりの

花火に酔いしれていた。花火を終え、小川自治会の大前敏男会長は「コロナ禍の中でも地域住民らがついにまとまった気がした。開催できたのも皆さんのおかげ。やってよかった」と感謝の言葉を並べていた。



能登川地区を照らした210発の打ち上げ花火